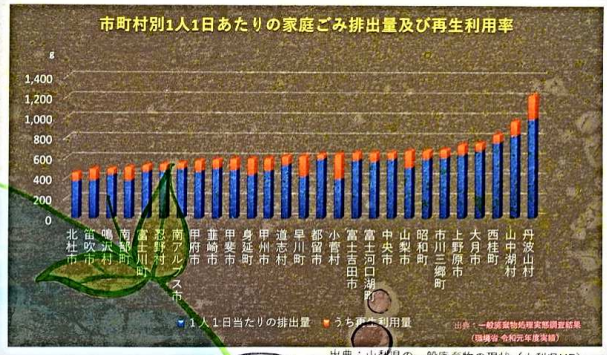
堆肥の種類による収穫量の違いについて

～家庭ごみをリサイクルした肥料の効果～

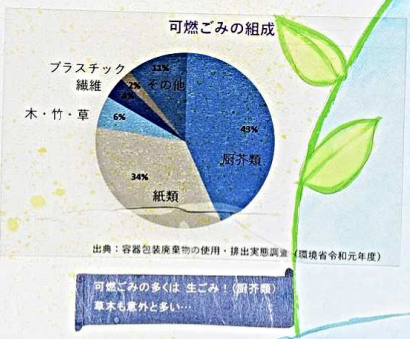
肥料にリサイクルできる家庭ごみはどれ？！
どの野菜にどの肥料が有効なの？
発芽・成長、収穫に差はあるのか？！

動　機

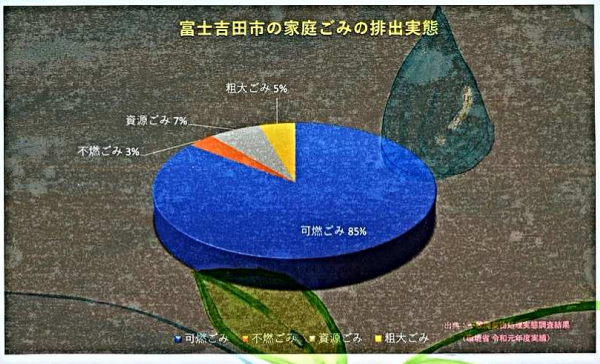
家の畑で、いろいろな農作物を育ててきたが、同じ気象条件でも、その年や作物の種類によって、収穫量等に差が生じることが多かった。この主たる要因は一体何か？
僕たちにもできるSDG'sの身近な取り組みとして、家庭ごみをリサイクルした肥料を使用し、野菜の収穫量や生育差を調査・検証した。



出典：山梨県の一般廃棄物の現状（山梨県HP）



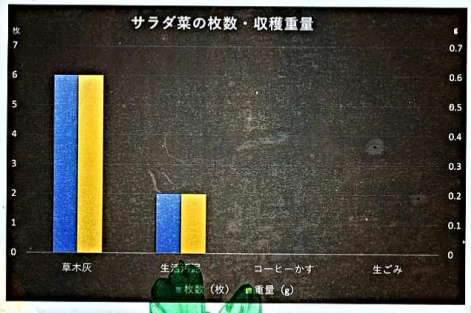
可燃ごみの多くは 生ごみ！（厨芥類）
草木も意外と多い…

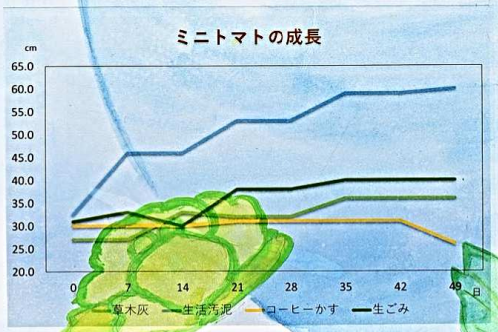


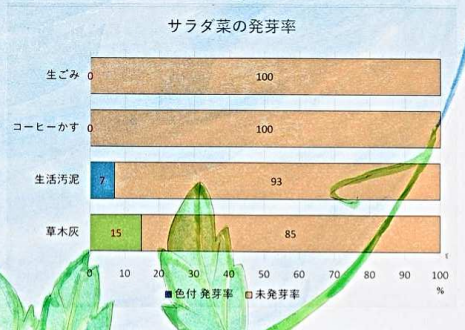
わたしたちの富士吉田市は、ゴミの排出に対し、リサイクル率が低い！
もっと再利用できるといいのに…

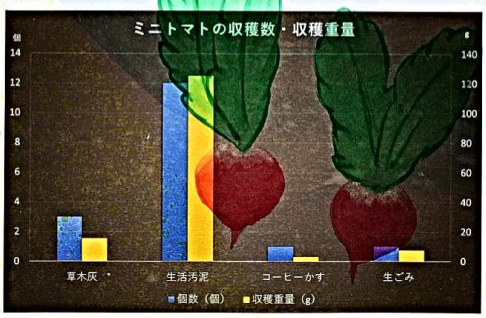
たき火やバーベキューで発生する草木灰は、即効性があり、根野菜の肥料に適している一方、生ごみは、遅れて効果を発揮する肥料であることが分かった。

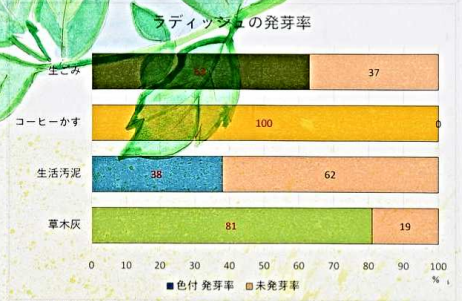
浄化槽の汚泥は、いずれの野菜にも一定の効果を発揮したが、直接 口にする野菜であることをふまえると、使用する場合は、根野菜よりも葉物や実物野菜の方がいいかな。

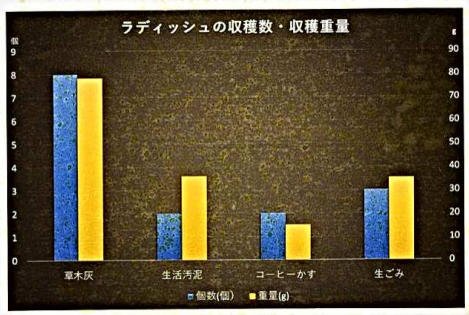












考　察

総合的に見て1番肥料としての有効性が確認されたのは生活汚泥だった。草木灰は、根野菜において、著しい効果があり、これは、成長の早い段階で根に水や養分を蓄積させたためだと考えた。生ごみ堆肥は、遅れて効果がでる肥料であったため、元肥として適していると考えた。コーヒーかすは、堆肥としての効果はないが、保水性があり、水分調整用として利用するには適しているのではないかと考えた。生命維持の観点から汚泥の減量は難しいが、生ごみは努力によって減量が可能である。肥料としての使用も生ごみよりも汚泥の方が適しており、食品ロスを減らす観点からしても、もっと生ごみを減らしていければいいなと思った。

調査期間：令和4年6月30日～8月21日 調べ
調査場所：山梨県富士吉田市 自宅内 プランター
（植え付け又は播種～ 収穫まで）